

26%、1000万円以上の所得を確保していることは驚異的」と高い評価を得て最優秀賞受賞となった。

松本さんは「家業の酪農を継ぐことに決めて35年。叱咤激励してくれた父と母のおかげでここまで来れた。いろいろな人からアドバイスをいただき、やってきたことが実を結んで感無量と涙を浮かべて喜んだ。

時代に沿った特色ある経営

最優秀賞のほか優秀賞には、牛舎施設の創意工夫やコントラクターなどの活用により省力化、効率化に努めて余暇を創出、また、自農場のOPU・IVF施設を地域の酪農家に提供し、地域酪農に貢献している清水牧場の清水繁勝さん、文子さん（岩手県）、消費者との積極的な交流や乳製品の製造直販などで地域内外に多くのファンを獲得する石岡鈴木牧場の鈴木昇さん（茨城県）、牧場を第三者継承しクロスブリーディング（異種交配）に取り組む萱森牧場の萱森健太さん（福井県）、敷料におがくずを極力使わず乳房炎の発生を極めて少なくしている高橋牧場の高橋悠さん、彩希さん（高知県）、働く人と環境にやさしい酪農を目指し、たい肥生産や働きやすい職場づくりなどを進める藤野牧場の藤野和有基さん（福岡県）を選定。特別賞として、清水さん夫婦に「先進技術普及地域貢献賞」、藤野さんに「人と牛にやさしい経営者賞」が贈られた。

小林信一審査委員長は「酪農所得や技術水準の高さだけでなく、先進性や普及性、地域への貢献、ワークライフバランスなども重視した」として、収益や技術だけでなくとらわれない多様な経営の重要性を提唱した。



審査委員長小林信一氏／静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教授



JA全農の齊藤良樹常務理事



第39回全農酪農経営体験発表会の受賞者と審査委員



藤野牧場 藤野和有基さん
「『牛・人・街』にやさしい酪農～理想の酪農経営に向かって走り続け～」

萱森牧場 萱森健太さん
「新規就農で受け継いだ酪農経営と地域の絆」

石岡鈴木牧場 鈴木昇さん
「地域の高感度な消費者と共に歩む酪農」



高橋牧場 高橋悠さん、彩希さん
「乳房炎ゼロへの飽くなき探求心 夫婦二人三脚で切り開く地域と酪農の明るい未来」

清水牧場 清水繁勝さん、文子さん
「余暇を楽しむ“自然体”酪農～恵まれた環境の中で～」



最優秀賞 松本牧場 松本陽一さん、聡美さん
「埼玉県狭山市『松本牧場』における総合的評価 飼料自給率向上が及ぼす影響 ～大学時代の研究を实践して15年～」

第39回全農酪農経営体験発表会



全国の経営に優れた酪農家が特色ある経営技術を発表

農協・県連・県本部が推薦する優秀な酪農経営体験者を表彰し、その経営技術を広く関係者に紹介する「全農酪農経営体験発表会」。全国から選出された6戸の酪農家が登壇し、特色ある経営を発表した。

J A全農は2021年11月26日、第39回全農酪農経営体験発表会を東京・大手町の日経ホールで開催した。昨年はコロナ禍により中止となったため2年ぶりの開催で、感染予防対策として会場での発表とオンライン発表による「ハイブリッド形式」で実施した。

開会にあたりJ A全農の齊藤良樹常務理事は、生乳生産量が増加している一方で需要が減少し、特に業務需要の減退から乳製品の在庫が積み上がっていることに触れ、「業界が丸となって課題解決に取り組んでいる。J Aタウンの酪市酪座による消費拡大や乳製品の販売促進などを強化している」と業界を挙げた理解と協力を呼びかけた。

最優秀賞に松本牧場（埼玉県） 自給飼料の追求で乳量・乳質向上

最優秀賞に輝いたのは埼玉県狭山市の松本牧場の松本陽一さん、聡美さん。飼料の自給率向上を通じて乳質改善と乳量増加を実現させた取り組みを報告した。搾乳牛の粗飼料自給率は90%以上で、J Aの土壤診断や県機関の飼料分析を活用して飼料の品質改善を追求。その結果、就農から15年で1頭あたり年間平均乳量が2000kg近く増加し、乳飼料比31%を達成したという。「少ない餌で効率的に搾れる牛を選抜して1頭あたり収益性をアップし、経産牛5産5万kgの経営に努めたい」と抱負を述べた。

審査員からは「飼料生産基盤の安定化と拡大で良質飼料を確保し、消臭対策なども含めて都市近郊酪農のモデルとなる経営を実践。30頭規模で所得率

全農学生「酪農の夢」コンクール SDGsの視点で未来を展望

同日は第15回全農学生「酪農の夢」コンクールも開催され、全国の学生が応募した作文128作品から選ばれた最優秀賞、優秀賞の計4作品が発表された。

最優秀賞には北海道岩見沢農業高校の茂木千波さんの「乳で広がる無限の可能性」を選定した。茂木さんは、乳製品を製造する過程で生じるホエーが未利用のまま廃棄される現状に着目。日本獣医生命科学大学で研究されている、キャラメルのような風味の「プラウンチーズ」の製造による酪農の収益向上と食品ロスの削減を提唱した。このほか優秀賞に福島県農業総合センター農業短期大学の菅野泰夢さん、栃木県農業大学の糸川夏海さん、北海道帯広農業高校の砂川律さんを選んだ。

表彰式の後には、発表を終えた酪農家と学生による座談会を開催した。学生らは、理想の酪農や経営の現実といった関心事について、発表会で受賞した「大先輩」に質問するなど活発な意見交換が行われた。



前列左から菅野泰夢さん、糸川夏海さん、茂木千波さん、砂川律さん、後列は指導にあたった先生方



酪農経営者に質問する学生たち